



## フランス高等教育研究省(MESR)

### ●「第五回オープン・アクセス・デー」

2013 年 1 月 24 日、フランス高等教育研究省ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ(Geneviève Fioraso)大臣は第五回オープン・アクセス・デーに参加した。

オープン・アクセスとは、様々な分野の研究成果を全面的に公開するための取り組みで、欧州レベルでは欧州委員会が、2012 年 7 月に欧州の研究・イノベーション支援プログラム(2014 年から 2020 年)“Horizon 2020”の支援を受けたすべての研究成果へのアクセスを 2014 年以降可能にする」と発表している。まず、①“Gold Open Access”と題し、学術記事が出版社によって即時に公開されることを促進する。出版費用は欧州委員会が負担することも可能。また、②“Green Open Access”と題し、研究者自らが研究成果を出版後 6 ヶ月以内(人文・社会科学分野は 12 ヶ月以内)に公開することを促進する。

今回の第五回オープン・アクセス・デーでは、EU や英国、ドイツでのオープン・アクセスの取り組みが紹介され、フランス国内でも次のような取り組みを行っていく旨が示された。

- ①“Green Open Access”に協力
- ②“Gold Open Access”の実現可能性を模索
- ③「プラチナ・ロード」と称した第三の道(無料での論文検索)を推進
- ④論文検索プラットフォーム“HAL”(Hyper Article en Ligne)の充実
- ⑤論文著者である研究者に出版契約に関するモデルを提示
- ⑥科学アカデミーの報告書を基にした科学の評価方式における科学論文の位置の検討
- ⑦記事の翻訳等国際的なレベルでの出版に向けて国内の編集者との協力体制を確立

・フランス高等教育研究省 “Discours de Geneviève Fioraso lors des 5e journées Open Access”(2013 年 1 月 31 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid66992/discours-de-genevieve-fioraso-lors-des-5e-journees-open-access.html>

・欧州委員会 “Scientific data: open access to research results will boost Europe’s innovation capacity”(2012 年 7 月 17 日) [http://europa.eu/rapid/press-release\\_IP-12-790\\_en.htm](http://europa.eu/rapid/press-release_IP-12-790_en.htm)

### ●「エリゼ条約締結 50 周年: 仏独学術交流の強化」

2013 年はフランス、ドイツ間でエリゼ条約(独仏協力条約)が締結されて 50 年の記念すべき年である。同条約は戦争によって切断されたフランスとドイツの和解を目指し、過去に例を見ない両国間の協力関係を築くことを目的として、1963 年 1 月 22 日に当時のフランス大統領シャルル・ド・ゴール氏と西ドイツ首相コンラート・アデナウアー氏によってパリのエリゼ宮で調印された。

2013年1月22日、フランス高等教育研究省のジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ大臣は、ベルリンにて仏独大臣会議に出席し、ドイツ連邦教育・研究省のアネット・シャヴァーン(Annette Schavan)大臣と会談を行った。フィオラゾ大臣のコメントは次のとおり。

「1966年のエリゼ条約調印から50年間、フランス、ドイツは高等教育分野で密接な協力を行ってきた。ドイツとフランスの研究予算は欧州全体の50%、世界の10%を占めている。フランスにとってドイツは欧州で一番のパートナーであり、ドイツにとってフランスは一番のパートナーである。この機会に二国間の科学技術協力、大学間協力を再認識したい。特に、①学生や若手研究者のモビリティを高めること、②健康、バイオテクノロジー、情報、エネルギー分野を中心とした科学技術協力強化、③2012年11月に開催された欧州宇宙機関評議会にて合意された宇宙分野の協力促進、の三点に力を入れたい。」

高等教育研究分野でも、この仏独エリゼ条約締結50周年を記念とし、いくつもの行事が催される予定である。

・フランス高等教育研究省 “Cinquantenaire du Traité de l'Elysée : renforcer la coopération scientifique et universitaire franco-allemande” (2013年1月23日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid66891/renforcer-la-cooperation-scientifique-et-universitaire-franco-allemande.html>

・フランス高等教育研究省 “Année franco-allemande : cinquanteenaire du Traité de l'Elysée” (2013年1月21日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid66829/annee-franco-allemande-cinquanteenaire-traité-elysee.html>

・エリゼ条約締結50周年記念ウェブサイト <http://50ans.france-allemande.fr/>

### ●「インドとの高等教育、研究、イノベーション協力」

2013年2月15日、フランス大統領の訪印の機会に、フランス高等教育研究大臣ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ氏はインド人的資源開発大臣パラム・ラジュ(Pallam Raju)氏と仏印間の高等教育、研究、イノベーション協力推進の第16回合意書に署名した。インドはフランスも関係する国際プロジェクトである核エネルギー実験施設ITER、欧州原子核研究機構(CERN)、全地球航法衛星システムGalileo等にも既に貢献している。今回の署名をきっかけに、更なる仏印間の協力が期待される。

・高等教育研究省”Enseignement supérieur et recherche : 16 partenariats signés à Delhi”(2013年2月15日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid67183/enseignement-superieur-et-recherche-16-partenariats-signes-a-delhi.html>

### ●「フィオラゾ大臣技術アカデミーの名誉メダル受賞」

2013年2月18日、フランス高等教育研究省ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ大臣はフランス技術アカデミー(Académie des Technologies)の名誉メダルを他の10名の研究者らと共に受賞した。フィオラゾ大臣は10年間マイクロ・ナノテクノロジーの研究拠点であるグルノーブルMINATECの会長室に勤務した経験からも、科学技術の推進が産業発展に多大な貢献をすることを認識しており、フランス

の研究開発能力をさらに向上させたいと考えている。中小企業への技術移転、Horizon 2020 に関連した欧州内研究協力等を積極的に進めていきたい。

・高等教育研究省 ” Geneviève Fioraso reçoit la médaille d'honneur de l'Académie des Technologies” (2013 年 2 月 20 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid67241/genevieve-fioraso-recoit-la-medaille-d-honneur-de-l-academie-des-technologies.html>

### ●「ITER 本部の開所式」

2013 年 1 月 17 日、フランス高等教育研究省ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ大臣は欧州委員会エネルギー担当委員ギュンター・エッティンガー氏 (Günther Oettinger) と共に ITER (国際熱核融合実験炉) 本部の開所式に出席し、本島修 ITER 機構長の案内で建設現場を視察した。フィオラゾ大臣は ITER へのフランスの参画の意義と ITER の持つ社会や科学技術への重要性を強調した。

・高等教育研究省 ” Inauguration du bâtiment siège d'ITER” (2013 年 1 月 17 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid66820/inauguration-du-batiment-siege-d-iter.html>

・DNA “Le siège d'Iter inauguré” (2013 年 1 月 18 日)

### ●「高等教育機関における男女平等」

2013 年 1 月 28 日、フランス高等教育研究省ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ (Geneviève Fioraso) 大臣は、ナジャット・ヴァロー＝ベルカセム (Najat Vallaud-Belkacem) 女性権利大臣・政府報道官と共にフランス大学長評議会、エンジニアリングスクール学長評議会、グランゼコール学長評議会の三者が作成、承認した男女平等憲章に署名し、次のような談話を発表した。

「11 世紀に高等教育機関が誕生してから、大学は必ずしも機会平等の中心ではなかった。今回の署名は歴史的にも画期的なものである。現在女子学生の割合は高まっているが、大学の教員では女性はマイノリティ(24%)であり、例えば大学の評議会では全体の 27%、大学幹部では 8%、PRES 幹部(研究・高等教育拠点)では 15%である。女性の大学長は 2008 年度にはフランス全体で 16 名だったが、2012 年度は 8 名であった。こうした状況を改善するために、2012 年 11 月 30 日、女性の権利のための政府内閣僚委員会が発足し、高等教育研究省と高等教育研究機関間の対話が行われ、現在、40 件の具体的取り組みが検討されている。本取り組みは、フランス全土の 300 の大学、グランゼコール等高等教育機関が関与する大規模なものとなる。」

・フランス高等教育研究省 “La France pionnière de la parité à l'université : des engagements pour une avancée historique” (2013 年 1 月 28 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid66933/la-france-pionniere-de-la-parite-a-l-universite.html>

### ●「診療補助部門の高等教育課程への融合」

2013 年 1 月 25 日、フランス高等教育研究省ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ大臣は、マリソル・トゥレーヌ (Marisol Touraine) 厚生大臣と共に、orthophonistes (発音矯正士、言語治療士) 及び

masseurs-kinésithérapeutes (マッサージ・運動療法施術者)ら診療補助部門の専門家育成コースを学部・修士・博士課程教育に組み込むことを決定した。本計画は 2008 年より検討されており、今回の決定で同分野の大規模な改革が 2013 年度より実施されることとなった。

・高等教育研究省“Poursuite de l'intégration au processus L.M.D. des professionnels paramédicaux” (2013 年 1 月 25 日)

[http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid66881/poursuite-de-l-integration-au-processus-l-m.d.-des-professionnels-paramedicaux.html](http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid66881/poursuite-de-l-integration-au-processus-l-m-d.-des-professionnels-paramedicaux.html)

### ●「フランス大学長評議会と教員養成課程の改革に係る合意」

2013 年 1 月 24 日、ヴァンサン・ペイヨン (Vincent Peillon) 国民教育大臣、ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ高等教育研究大臣、ジャン＝ルー・ザルツマン (Jean-Loup Salzman) フランス大学長評議会議長は教員養成課程の改革を目指した合意書に署名を行った。

本合意は、教員養成及び教育に特化した新しい高等教育機関 (Ecoles supérieures du professorat et de l'éducation: ESPE) 及び同機関によって 2013 年度より開始する教員養成のための修士課程コース (MEEF) を速やかに実施するためのものである。

・高等教育研究省“Accord État et C.P.U. sur la feuille de route de la réforme de la formation des enseignants” (2013 年 1 月 24 日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid66912/accord-etat-et-c.p.u.-sur-la-feuille-de-route-de-la-reforme-de-la-formation-des-enseignants.html>

・JSPS ストラスブール研究連絡センターフランス学術情報 (平成 24 年 12 月分)「教員養成のための新しい高等教育機関開設」

### ●「修士課程コースの削減」

2013 年 1 月 30 日、フランス高等教育研究省ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ大臣はル・モンド紙のインタビューに答え、フランス国内の修士課程コースの数を削減する見通しを語った。

「現在フランスでは大学で高等教育研究省によって修士号が与えられる修士課程 (DNM) に 296,000 名の学生が所属し、Science Po や社会科学系のグランゼコールである政治学院の修士課程 (IEP) に 197,000 名の学生が所属している。そのうち前者は 7,700 コースにおよび、うち 5,806 が専門修士課程である。フランスは 2002 年以降にボローニャプロセスに則り、大学の学位制度を学士・修士・博士の各課程を経る構造に統一し、欧州内で一体化したカリキュラム作りを目指してきた。しかし、それ以来フォローアップが行われておらず、結果として戦略なく修士課程のコースのみが増えてしまった。最初の取り組みとして 5,800 の専門修士課程の廃止を検討する。こうすることにより、企業にとっても修士卒業学生の雇用がしやすくなると考えられる。」

・Le Monde “Geneviève Fioraso : "Notre objectif, faire disparaître 5 800 spécialités de master”” (2013 年 1 月 30 日)

<http://www.lemonde.fr/education/article/2013/01/30/genevieve-fioraso-notre-objectif-faire-disparaitr>

### ●「グランゼコール準備クラスと大学の協力」

フランスではグランゼコールに入学するために、高等学校内にグランゼコール準備クラスが設けられ、高校卒業後、準備クラスにて更に入試の勉強を行う必要がある。グランゼコール準備クラスと大学が共同でグランゼコール入学のためのコースを実施できるようにすることが現在国家プロジェクトの一つとなっている。2013年1月17日、フランス高等教育研究省ジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ大臣は”Assises”高等教育諮問委員会での提案を受け、グランゼコール準備クラスを持つ高校と大学が協力し、準備クラスの学生が大学への進路変更を希望する場合や大学生が準備クラスに空席がある場合に移れるような措置をスムーズにとれるようにすることが望ましいとの希望を述べた。

・高等教育研究省”Rapprochement des classes préparatoires aux grandes écoles avec les universités”(2013年1月17日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid66816/rapprochement-des-classes-preparatoires-aux-grandes-ecoles-avec-les-universites.html>

フランス高等教育研究省(MESR)、フランス国立科学研究センター(CNRS)、欧州委員会  
(European Commission)

### ●「グラフェンプロジェクトとヒト脳プロジェクト、欧州委員会の研究優秀賞に選ばれる」

2013年1月28日、欧州委員会は「FET(Future and Emerging Technologies) Flagships)」にグラフェンプロジェクトとヒト脳プロジェクトが選ばれたと発表した。両プロジェクトはそれぞれ、10年間の最先端科学研究を遂行するために、10億ユーロの研究費を受け取ることになる。これらのプロジェクトは、現在欧州評議会と欧州委員会で準備が進められている Horizon 2020(2014年から2020年)のEU研究枠組みプログラムにも組み込まれる予定である。

グラフェンプロジェクト資金の14.1%が割り当てられるフランスは、研究活動の量的な面で第一貢献国として位置付けられる。

フランス高等教育研究省のジュヌヴィエーヴ・フィオラゾ大臣は、フランスが国際的にも同分野で優れていることが証明されたことを喜ばしく思っているとの談話を発表した。

・高等教育研究省 “Des équipes scientifiques françaises distinguées par le programme européen sur les FET (Technologies futures et émergentes)”(2013年1月28日)

<http://www.enseignementsup-recherche.gouv.fr/cid66940/des-equipes-scientifiques-francaises-distigues-par-le-programme-europeen-sur-les-fet.html>

・CNRS “La Commission européenne sélectionne le projet phare de recherche Graphène”(2013年1月28日) <http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/2963.htm>

・欧州委員会 ” Graphene and Human Brain Project win largest research excellence award in history, as battle for sustained science funding continues”(2013年1月28日)

[http://europa.eu/rapid/press-release\\_IP-13-54\\_en.htm?locale=en](http://europa.eu/rapid/press-release_IP-13-54_en.htm?locale=en)

## フランス国立科学研究センター(CNRS)

### ●「医学研究のための新しいサイクロトロン、Cyrce」

数ヶ月前にストラスブールのクロネンブールキャンパスに設立された、Hubert Curien 学際研究所 (IPHC、CNRS/ストラスブール大学)の新しい加速器 Cyrce(研究・教育のためのサイクロトロン)が 2013 年 2 月 1 日にオペレーションを開始した。Cyrce は欧州でもユニークなサイクロトロンで、最近、核医学でトレーサーとして一般的に用いられるフッ素 18 を作り出すことに成功。Cyrce は、がん腫学や神経学の診断において薬剤の追跡調査の向上および新しい治療法の発見を目指した国の取り組みの一環である。

・CNRS “Cyrce, un nouveau cyclotron pour la recherche médicale” (2013 年 2 月 1 日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/2977.htm>

### ●「Stéphanie Thiébault 氏、CNRS の環境生態学研究所の所長に指名」

CNRS 会長の Alain Fuchs 氏は、Françoise Gaill 氏の後任として Stéphanie Thiébault 氏を CNRS の環境生態学研究所 (INEE) 所長に指名した。古植物学者であり植物考古学者である氏は、遺跡から出土した木炭の解析の専門家で、2008 年秋に同研究所の「環境と持続可能な発展領域」の副研究部門長に指名され、2012 年 3 月からは同研究所の副所長を務めていた。

・CNRS “Stéphanie Thiébault est nommée directrice de l'Institut écologie et environnement du CNRS” (2013 年 2 月 12 日) <http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/2981.htm>

## フランス国立科学研究センター(CNRS)・フランス国立研究機構(ANR)

### ●「Jean Jouzel 氏、Vetlesen 賞 2012 を受賞」

四年に一度選考される「地球宇宙科学のノーベル賞」とも言われる Vetlesen 賞の 2012 年の受賞者に、気候環境科学研究所 (CEA/CNRS/UVSQ) の古気候学者 Jean Jouzel 氏が Susan Solomon 氏 (米国) と共に選ばれた。フランス人初の本受賞は、氏の CEA における長年の極地の氷塊と気候に関する研究業績が認められたことによる。氏は、ANR の評議会委員および科学技術高等評議会の会長も務めている。授賞式は 2013 年 2 月 21 日、ニューヨークのコロンビア大学で行われる。

・CNRS “Jean Jouzel, lauréat du prix Vetlesen 2012” (2013 年 1 月 17 日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/2955.htm>

・ANR “L'ANR félicite Jean Jouzel, paléo-climatologue au CEA, pour l'obtention du prix Vetlesen 2012, considéré comme le « Nobel des sciences de la Terre et de l'Univers »”(2013年1月13日)  
<http://www.agence-nationale-recherche.fr/magazine/actualites/detail/l-anr-felicite-jean-jouzel-paleo-climatologue-au-cea-pour-l-obtention-du-prix-vetlesen-2012-consideré-comme-le-nobel-des-science-s-de-la-terre-et-de-l-univers/>

## フランス国立研究機構(ANR)

### ●「FLASH Japon 2011 プログラムの最終シンポジウム」

2013年3月6～7日仙台で、FLASH Japon「東日本大震災」プログラムを総括するシンポジウムが開催される。ANRと科学技術振興機構(JST)は、2011年3月11日の地震と津波を受けて、災害緊急時に関する研究の推進と災害緊急時の日仏協力の強化のため、プロジェクト公募を行った。この枠組みで選ばれた9つの日仏プロジェクトは、地球科学、環境や社会への影響、エンジニアのための科学、危機管理、自然災害とテクノロジーの関係、復興と再建に焦点が当てられた。2013年3月末にはこれらすべてのプロジェクトと、JSTと米国NSF等他国の関連機関が取り組んでいる同様の24プロジェクトが完結する。このシンポジウムでは、プロジェクトに参加した研究者と、地方自治体の関係者が集い、これまでの取り組みを総括する。

・ANR “Symposium final du programme FLASH Japon 2011”(2012年1月25日)  
<http://www.agence-nationale-recherche.fr/magazine/actualites/detail/symposium-final-du-programme-flash-japon-2011/>

## 国立衛生医学研究所(INSERM)

### ●「研究者と患者協会の協力によるパートナーシップの促進」

INSERMの患者協会と共に考えるグループ(GRM)とフランス上院の社会問題委員会の共催により、2013年1月31日に第六回「研究と患者協会」全国大会が開催された。その目的は、研究の世界と患者協会とが手を取り合い、病気をよく理解して負担を軽くし、どのように回復する道があるかを探ることにある。本大会では、具体的に研究者と患者協会の協力を示す3つのビデオが製作された。

・INSERM “Ensemble pour progresser : quand chercheurs et associations unissent leurs efforts”(2013年1月29日)  
<http://www.inserm.fr/actualites/rubriques/actualites-societe/ensemble-pour-progresser-quand-chercheurs-et-associations-unissent-leurs-efforts>

## ●「脳週間 2013: 神経科学研究の進歩を学ぼう」

2013年3月11～17日の「脳週間」の際、INSERMはフランスの様々な都市で、一般人を対象に多数のイベントを予定している。講演、展示、スライド上演、ワークショップなどを通じて、脳の基礎知識や神経科学研究の進歩について学ぶ。

・INSERM “La Semaine du cerveau 2013 : découvrez les progrès de la recherche en neurosciences”

<http://www.inserm.fr/actualites/rubriques/actualites-evenements/la-semaine-du-cerveau-2013-decouvrez-les-progres-de-la-recherche-en-neurosciences>

## フランス国立農業研究所 (INRA)

### ●「気候変動の軽減に関する国際プログラムの公募開始」

全温室効果ガスの19-29%は農業由来で、その減少のためには国際的な取り組みが必要である。2013年1月28日、農業・食の安全・気候変動に関する共同イニシアチブ (FACCE-JPI) は、農業由来の温室効果ガスに関する複数パートナー間プロジェクトの公募開始を発表した。本取り組みには、11のFACCE-JPI加盟国とニュージーランド、米国が参加している。

・INRA “L’initiative européenne FACCE-JPI lance un appel d’offres international sur l’atténuation du changement climatique” (2012年1月29日)

[http://www.inra.fr/presse/facce\\_jpi\\_appel\\_d\\_offres\\_international\\_attenuation\\_changement\\_climatique](http://www.inra.fr/presse/facce_jpi_appel_d_offres_international_attenuation_changement_climatique)

## ヨーロッパ・リサーチ・カウンシル (ERC) ・フランス国立科学研究センター (CNRS)

### ●「ERC 研究費 6 億 8000 万ユーロで 302 名のトップ研究者を支援」

2006年に創設されたERCの‘Advanced Grants’ (上級研究者助成金) の2012年度支援分として、欧州24カ国のシニア研究リーダー302名が選ばれ、総額6億8000万ユーロが提供されることが決定した。1件あたり最高250万ユーロが支給され、科学者らが画期的なアイデアを追求することを支援する。

‘Advanced Grants’の獲得者302名のうち、フランスは39名で、78名の英国に次いで第2位に位置する。うち、CNRSからは14名が獲得し、欧州の研究機関のトップに輝いた。

・ERC “ERC funding of €680 million to 302 top researchers” (2013年1月22日)

[http://erc.europa.eu/sites/default/files/press\\_release/files/press\\_release\\_adg2012\\_results.pdf](http://erc.europa.eu/sites/default/files/press_release/files/press_release_adg2012_results.pdf)

・CNRS “Bourses ERC 2012 : le CNRS premier organisme européen” (2013年1月29日)

<http://www2.cnrs.fr/presse/communiqu/2971.htm>



## ヨーロッパ・リサーチ・カウンシル(ERC)

### ●「ERC、Davos 2013 フォーラムで世界のリーダーと意見交換」

ERC 会長 Helga Nowotny 教授と著名な科学者らは、今回初めて、スイスのダボスで開催された世界経済フォーラム(WEF)に参加した。過去 40 年に渡って毎年開かれているこのフォーラムは、政府、企業、市民社会、学界のリーダーが集い、世界的に差し迫った問題について議論する場である。本フォーラムで ERC 代表団は、科学界の最新の動向を示して科学の今後の展望を紹介し、現代社会での最先端研究の重要性について議論を促した。

・ERC “European Research Council to meet world leaders in Davos 2013” (2013 年 1 月 23 日)

[http://erc.europa.eu/sites/default/files/press\\_release/files/Press\\_highlight\\_DAVOS\\_2013.pdf](http://erc.europa.eu/sites/default/files/press_release/files/Press_highlight_DAVOS_2013.pdf)

### ●「欧州委員会 Horizon 2020 プログラムに 800 億ユーロの研究費を提言」

欧州理事会の 2014～2020 年の EU 予算承認を前にして、ERC と欧州企業ラウンドテーブル(ERT)は、研究のイノベーションプログラム Horizon 2020 への 800 億ユーロ投資の承認を各国政府に要請する声明を発表した。本声明では、GDP に対する研究開発費への投資率が、米国 2.8%、日本 3.3%、韓国 3.4%に対して、EU は 1.9%と低いことを挙げ、EU の研究費削減に強い懸念を示すとともに、科学的発見と技術進歩を支援することの重要性を強調した。

・ERC “€80 billion budget for research and innovation is vital for Europe’s future” (2013 年 1 月 30 日)

[http://erc.europa.eu/sites/default/files/press\\_release/files/Joint\\_letter\\_ERT-ERC\\_to\\_EU\\_leaders\\_in\\_support\\_of\\_R&I.pdf](http://erc.europa.eu/sites/default/files/press_release/files/Joint_letter_ERT-ERC_to_EU_leaders_in_support_of_R&I.pdf)

## ヨーロッパ・リサーチ・カウンシル(ERC)・欧州委員会(European Commission)

### ●「ERC “Proof of Concept” : 基礎研究の実用化を促す 60 の革新的プロジェクトを支援」

ERC は 2013 年 2 月 5 日、既に ERC のプログラムに採択されている課題の中から追加支援を行う “Proof of Concept” の採択結果を発表した。1 課題あたり最大 15 万ユーロが支給され、研究と実用化イノベーションとの橋渡しを支援する。2012 年 9 月に 33 課題が選ばれ、今回新たに 60 課題が支援されることが決定した。“Proof of Concept” は、知的所有権、商機に係る調査や実現性の技術的検証等に関連した研究支援を含む。本プログラムは欧州研究エリア内の 10 カ国の研究者を対象とし、今回の予算総額は 1000 万ユーロである。

・ERC “ERC funds 60 innovative projects to bring ‘blue sky’ research toward market” (2013 年 2 月 5 日) [http://erc.europa.eu/sites/default/files/press\\_release/files/erc\\_pr\\_poc\\_2012\\_second\\_results.pdf](http://erc.europa.eu/sites/default/files/press_release/files/erc_pr_poc_2012_second_results.pdf)

・欧州委員会 “EU funding to help 'blue sky' research to market” (2013 年 2 月 5 日)

[http://europa.eu/rapid/press-release\\_IP-13-84\\_en.htm?locale=en](http://europa.eu/rapid/press-release_IP-13-84_en.htm?locale=en)

・JSPS ストラスブール研究連絡センター学術情報(平成 24 年 9 月分)「“Proof of Concept”:採択課題の更なる支援プログラム」

## 欧州委員会 (European Commission)

### ●「ERC 次期会長候補の選考委員会設置」

欧州委員会によって設置された次期 ERC 会長選考のための独立調査委員会は、科学コミュニティーに候補者の推薦を依頼している。ERC 会長は、ERC 科学評議会の議長を務め、ERC の代表者となる。そのため、最先端科学における欧州の科学拠点をより一層強化し、最先端研究のよき賛同者となって、欧州内外で欧州科学「大使」の役割を果たすことが求められる。次期会長は、現会長の Helga Nowotny 氏の後を継いで 2014 年 1 月 1 日就任(任期 4 年)の予定。

・欧州委員会 “Search starts for next President of European Research Council” (2012 年 12 月 19 日) [http://europa.eu/rapid/press-release\\_IP-12-1393\\_en.htm?locale=en](http://europa.eu/rapid/press-release_IP-12-1393_en.htm?locale=en)

・欧州委員会 “Search committee invites nominations for next President of the European Research Council” (2013 年 1 月 28 日)

<http://ec.europa.eu/research/index.cfm?pg=newsalert&year=2013&na=na-280113>

### ●「ダブリンで EU 基準の新たな大学国際ランキング開始」

欧州連合の財政援助を受けて設けられた新たな大学ランキングが、2013 年 1 月 30 日、EU 議長国のアイルランドのダブリンで、公式に開始された。欧州および世界各国から約 500 の大学が参加することが予想されており、第一回結果は 2014 年初めに公表される。既存のランキングが研究成果を重視しているのに対し、本ランキングは五つの「多次元的な」基準(研究の評判、教育と学習の質、国際的な展開、知識移転の成功、地域社会への貢献)で評価し、学生が自分に合った大学を選ぶこと、各大学の弱点強化、政策立案者の高等教育制度の現状把握等に役立つものとして期待される。

・欧州委員会 ”New international university ranking launched in Dublin” (2013 年 1 月 30 日)

[http://europa.eu/rapid/press-release\\_IP-13-66\\_en.htm?locale=en](http://europa.eu/rapid/press-release_IP-13-66_en.htm?locale=en)

### ●「EU が財政支援しているプロジェクトの模範例」

EU 予算の約 94%が、研究、ビジネス、農業、地域、青少年等多くの分野を支援している。しかし、現場での具体的なプロジェクトや、それらがどのように一般市民やビジネス、欧州経済に具体的な結果や利益をもたらしているのかについては、ほとんど知られていない。そこで、それらについてイメージを持ってもらうため、欧州委員会は EU プロジェクトの模範例のリストを作成・公開した。リスト

には、研究、統合政策、開発援助、農村開発、人道的援助、環境と健康等、約100例が挙げられている。

・欧州委員会 ” Investing in our future: Good examples of EU funded projects ”(2013年2月7日)  
[http://europa.eu/rapid/press-release\\_MEMO-13-74\\_en.htm?locale=en](http://europa.eu/rapid/press-release_MEMO-13-74_en.htm?locale=en)